

【ミッション】 日本産業の国際競争力の向上、企業価値の向上を目的とした、知的財産施策の推進にあたり、知財マネジメントの指標となるべきテーマを取り上げて研究を行い、その成果を広くメンバー会社あるいは国の政策、さらには世界の知財機関に対して適切に発信していく。

【研究テーマ】

対象・視点：知財経営の推進に関連するテーマ、企業の知財戦略部門としての視点
 体系：1. 知的財産経営（MOT・IR・M&A・グループ経営を含む） 2. 知的財産の創造 3. 知的財産の保護 4. 知的財産の活用・評価 5. 知財活動を支える施策（職務発明・知財実態調査・人材育成を含む） 6. 知的財産政策への提言
 年間活動スケジュール：
 小委員会活動(毎月4～3月)、全体委員会(中間報告10月、成果報告3月)
 研究方法：仮説設定 ⇒ 実態調査(有識者ヒアリング等) ⇒ 議論考察

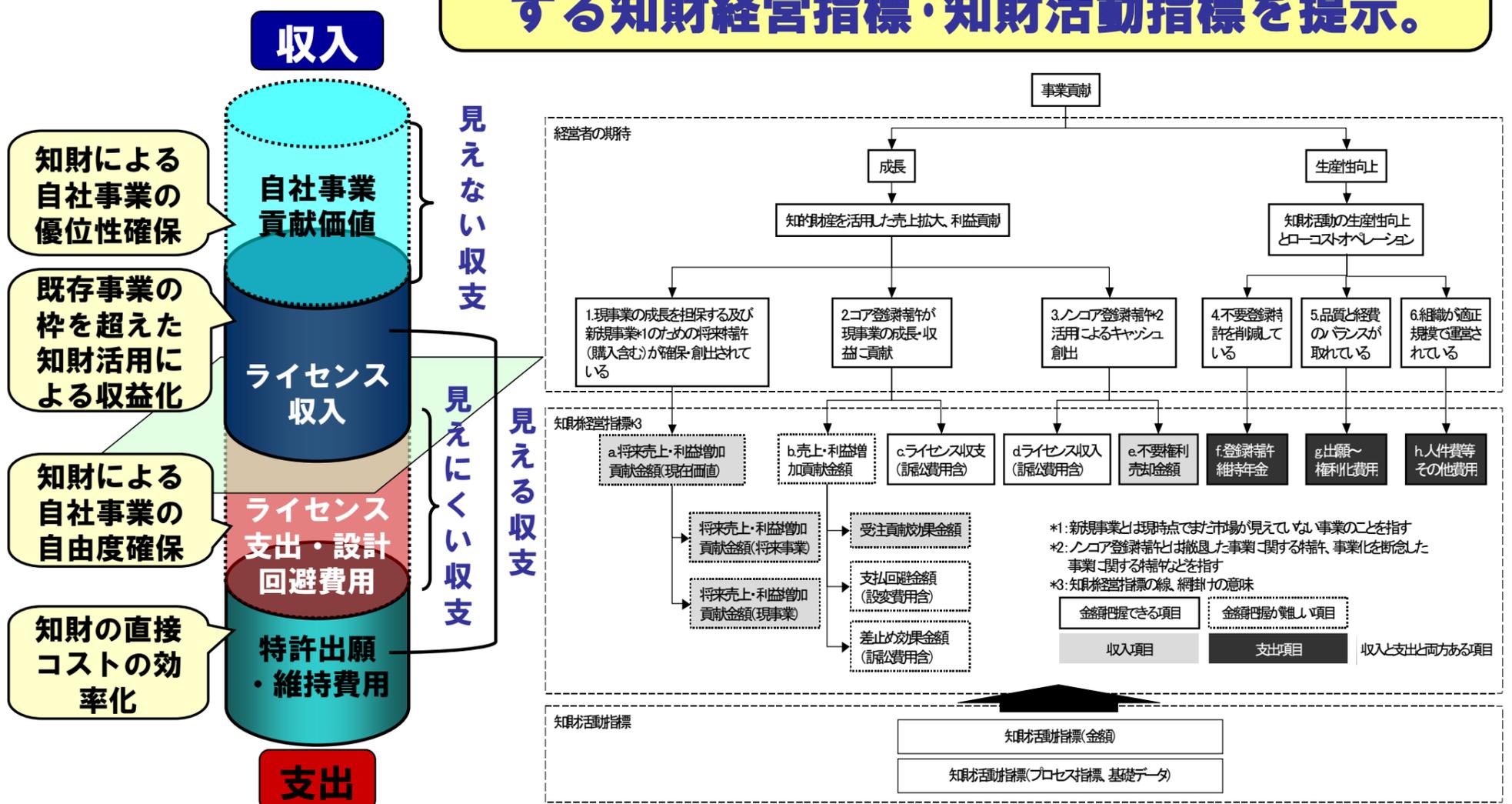
知的財産マネジメント委員会 [2010年度研究テーマ]

第1委員会	第1小委員会「権利維持の判断基準、維持年金の経済性効果に関する研究」
	第2小委員会「知財マネジメントにおけるノウハウ管理の課題と対策」
	第3小委員会「知財リスクマネジメントのあるべき姿」
	第4小委員会「発明の評価方法と評価データの蓄積に関する研究(中長期)」
第2委員会	第1小委員会「事業戦略及び研究戦略と連携した外国出願の研究」
	第2小委員会「“知財経験のない”新任知財部門長のための知財マネジメント研究」
	第3小委員会「会社形態の変化に対応した知財部門の採るべき施策についての研究」

<事例1> 2006年度テーマ「経営に資する知的財産指標の見える化」

◆経営層は「経営に対する貢献度が見えない」と知財部門に指摘。

◆知的財産・知財活動の成果を「見える化」する知財経営指標・知財活動指標を提示。



<事例2> 2007年度テーマ「知財人材育成のための心得3箇条」

— あなたのやり方は まちがっている —

さらに上の人材を目指すには



部門長がなすべきこと

◆一層の社業の発展をみるか否かは、知財部門長であるあなたがどれだけ**真剣に人材育成に取り組むか**にかかっている！！

◆部門長心得3箇条

1. 本気で人材育成に取り組め
2. 信念を持って育成せよ
3. 自らも基礎力をつけよ

<事例3> 2010年度テーマ「事業戦略及び研究戦略と連携した外国出願戦略の研究」

◆**海外売上高 80%** ⇔ **外国特許出願比率 20%**
これが事業に貢献する外国出願戦略か？

1.外国出願ポリシー

- ・特許出願の目的として重視している考え方
- ・外国出願の対象（事業的重要度の高さ、特許としての価値の大きさ等）
- ・国内のみの出願有無と意義（国内競合対策、公知化、発明者のモチベーション維持）

2.研究開発、事業との関連

- ・事業特性を外国出願に反映する方法
- ・研究開発の特性を外国出願に反映する方法（研究開発拠点の所在地と出願国の関係）

3.出願国決定プロセス、基準

- ・出願国決定（選定）の基準、考え方（製造国、販売国、競合会社数等）
- ・新興国についての考え方（将来の成長可能性、特有のリスク等）
- ・理想的な外国出願戦略、グローバルな知財ポートフォリオ管理とは？

◆「~~外国出願戦略~~」から「**グローバル出願戦略**」へ
進化するための提言（知財管理誌 2011年4月号掲載予定）